

6-1 地域ビジネス革新プロジェクトの目的と概要

1. 地域ビジネス革新プロジェクトの目的

本プロジェクトは、様々な地域ビジネスの検討を中心に、地域農業や農村の将来像と活性化方法を探求することを目的として、次の3つの課題に取り組んでいる。①地域資源の保全と活用を考える、②新しい農業・農村ビジネスや流通モデルを調査・分析する、③農村社会が直面する課題を発見・整理する。

2. 本学年の目標と活動内容

3年次は、農業・農村の活性化に必要な知識や分析手法を学び、食品産業振興による食と農を結ぶビジネスの展開、持続的農業における新規参入、催事による地域づくりを対象に調査・分析を実施した。

4年次は、3年次の活動を土台として、本プロジェクトの目的に沿った卒業研究に取り組んだ。今年度の卒業研究で取り組む分野は、1) 食と農を結ぶ地域ビジネス、2) 持続的農業の特徴と意義、3) 地域づくり・地域活性化の取り組みの3つである。

3. プロジェクトにおける卒業研究の課題と位置付け

1) 食と農を結ぶ地域ビジネス

6-2 地域資源を活用した商品・事業の経済効果 — LM3 分析を用いて — (鈴木 啓太)

地域の経済的活性化を図るための方法として、経済的波及効果を生み出す活動が必要であると考えた。そこで、地域資源を活用している商品及び事業を対象として、地域における経済的波及効果の発生と増加の仕組みを、地域循環という考え方及びLM3 という手法を用いて明らかにした。

6-3 農村レストランの特徴と意義 — 秋田県を事例に — (佐藤 帆南)

農家レストランを含む農村レストランは、食と農を結ぶ地域ビジネスの一つであり、農村女性起業の一形態としても注目されている。しかし、農村レストランがもたらす農村女性の社会参画や活躍の様相、地域にもたらす具体的な効果、新たに生まれるとされるネットワークや交流の内容が明らかになっていない。そこで本研究ではこれらを分析し、農村レストランの特徴と意義を明らかにする。

2) 持続的農業の特徴と意義

6-4 有機農業における女性農業者活躍のメカニズム (小鍛冶 航)

プロジェクト活動で観察された、有機農業における女性農業者の積極性に注目し、農業・農村におけるジェンダー問題の解決に寄与すべく、女性農業者が活躍するメカニズムを解明する。

有機農業の主な共通点として、家族の健康などの問題意識が意志の強さに結び付くとともに、周囲の変化をもたらし、理解・協力が得やすくなるため、女性が活躍しやすくなると言える。

3) 地域づくり・地域活性化の取り組み

6-5 秋田県を事例としたオーナー制度事業の継続性 (井坂 陽香)

中山間地域における高齢化や耕作放棄地などの問題に対し、オーナー制度は地域資源の保全や都市農村交流の推進を目的として行われることが多い。地域活性化に大きく寄与することからオーナー制度を継続的に行っていくべきだと考えられる。本研究では、秋田県内のオーナー制度を行っている団体を事例として、中山間地域のオーナー制度を行っている団体の継続性について明らかにした。

6-6 民間企業における買い物弱者支援の有効性 — 移動販売と買い物送迎バスについて —

(前川 龍路)

近年、買い物に行くことが困難である者、いわゆる「買い物弱者」が高齢者を中心に増加している。全国ではそのような「買い物弱者」について様々な支援が行われている。今回は秋田県の事例を中心に、移動販売や、買い物送迎バスに焦点を当てて実態と課題を分析し、その有効性を検討することを目的とする。